

小砂丘忠義 たけしげ 生活綴方運動家。明治二十年四月二十五日高知縣
 生れ、昭和十二年十月十日歿（八七七一九三三）。本姓笹岡。大正六年大
 杉尋常高等小學校訓導を始めとして各地の小學校を轉々、十四年田井
 第一小學校訓導兼校長と最後の教職を退く。この間數冊の文集を出版、
 十年にはSNK協會を組織して機關誌『極北』を、十二年上田庄三郎
 等と『地軸』を創刊した。翌年上京して北豊春島郡長崎村に居住し、東
 京兒童の村小學校機關誌『教育の世紀』を編輯。昭和二年文園社に入
 り『鑑賞文選』の編輯に携はる。更に六年郷土社と興して雑誌『綴方
 生活』、『綴方讀本』の編輯、執筆に従事してゐたが、四十歳を二期
 として歿した。遺稿集『私の綴方生活』（昭和十二年刊）の序文を寄
 せた田中貢太郎とは親交があり、文壇進出を勧められる程その文才を
 認められた。貢太郎名義の『少年濱口雄幸』は實際小砂丘の執筆に據
 るものといふ。

歿後十五年の當る二十七年、下中彌二郎、志垣寛を始め日本作文の會
 によりて、新人の綴方實感を奨励するたため小砂丘忠義實が設けられ、
 また十五年忌記念論稿集として遺稿集の再編『生活綴方の伝統』（日
 本作文の會編、昭和二十八年一月十五日百合出版株式会社）が刊行せ
 られた。

